

真壁粘土活用による製品開発

尾形 尚子

1. 結言

真壁陶土器製品の新たな開発として、植木鉢・素焼陶管等に使用されている粘土を活用した「素焼陶土器」を開発した。

この製品は、真壁粘土特有の温か味のある色合いを活かしながら、低下度釉による採色を施したもので、生活空間のインテリアグッズとして製品化を試みたものである。

2. 開発方向

真壁粘土の温かい色合いを活かしたもの。

年齢差を意識させないもの。

心なれどインテリア用品。

競合する産物がないこと。

新商品は「素焼陶土器シリーズ」として、いろいろな動物や身近なものをミニサイズにした置物、壁掛け、時計、アロマポット等のアイテムを制作した。また、多種の顔料を混入した無鉛M1フリット低下度釉を使用することで、楽しく明るいイメージを大切にしたい。

3. 内容

3.1 試作品

- ・自然な句風句をイメージしたロフト商品風のアイテム
- ・使用粘土：真壁粘土（水簾）

3.2 成型方法

- ・手ひねり成形、石膏型起こし

3.3 加飾方法

- ・素焼 いっちゃん

3.4 焼成条件

- ・焼成窯炉：電気炉、酸化
- ・焼成温度：850℃
- ・焼成時間：12時間
- ・使用釉薬：無鉛M1フリット使用の低下度釉

4. 結果

試作品は、試験研究機関の発言するデザインや技術が生活を潤し、かつ産業の活性化に寄与している姿を広く一般に知らせることを目的とする、全国陶磁器研究所研究機関作品展開催実行委員会主催の「陶&暮らしのデザイン展'97」に出品し、「日本セラミックス協会陶磁器協会選奨」を受賞した。これにより、真壁粘土の特徴を活かし、尚かつ植木鉢以外での新しい展開が期待できる。



図1 三輪車

図2 きつね茶シリーズ



図3 「陶 & 暮らしのデザイン展'97」 出展作品